

## リサーチセンター進捗状況報告書

センター名	未来環境エコデザインリサーチセンター
センター長名	藤江 幸一
設置の時期	平成 17年 4月 1日
報告書作成日	平成 19年 8月 31日

## 1. 設置の目的

人間活動の恒常性を実現するためには、未来社会における環境容量と人間活動との平衡を考慮しながら、人間活動を支える機能を恒常的に提供できる未来の産業社会像を明らかにした上で、そこに至る技術、システムの開発とロードマップの策定、すなわちビジョンと行動計画の策定が必要である。

本リサーチセンターは、環境生命工学専攻を中心に実施している21世紀COE拠点形成プログラム「未来社会の生態恒常性工学」の更なる研究の継続性の推進を担う中核として位置づけられ、SustainabilityとQuality of lifeを併せて実現するために恒常性社会をめざして、(1) 環境インパクト評価要素技術開発、(2) 環境インパクトを低減・抑制する産業技術・システム開発と評価、(3) 環境インパクト関連解析と未来社会の産業生態システム提示に関する研究・開発を実施する。

## 2. 設置後の研究成果

21世紀COEプログラムの事業推進担当者を中心に、7研究コアを形成し、研究開発の推進に加えて、大学院教育との連携による人材育成の推進、学外諸機関との連携による研究開発の展開などを積極的に行ってきた。センター長に加えて専任助教授1名と事務補佐員を置き、センターの運営および企画、事務処理を行うと共に、COEプログラム「未来社会の生態恒常性工学」の研究推進に寄与してきた。7研究コアによる研究成果の取り纏めに対する協力、国立科学博物館における「未来環境エコテクノロジー展」の企画・展示に加えて、県庁や市役所等での同展示の実施など、21COEによる研究の推進と情報発信による本学のプレゼンス向上に大きく貢献してきた。加えて、系の枠を越えて連携する研究体制を実現にしてきた。

## 3. 今後の研究計画及び期待される効果

当リサーチセンターの設置期間延長によって、以下の効果が期待される。

- 1) 21COE プログラム「未来社会の生態恒常性工学」に関する研究の更なる発展と継続：持続可能社会実現に向けた環境研究の核として、系・専攻の枠を越えて全学的な研究の展開を実現する。
- 2) 現代 GP「持続社会コーディネーターコース」等への協力と人材育成の推進：とよはし TLO「中核人材育成事業」とも連携して、持続可能社会の実現を担う地域の人材育成事業に貢献する。
- 3) 工学教育国際協力研究センター(ICCEED)と連携した環境研究の推進と人材育成：特に途上国における環境研究を担う人材の育成を、主に東南アジア諸国における外部資金プロジェクト等の実施を通して実施し、学内および相手国での人材育成に貢献する。
- 4) 持続可能社会実現に向けた研究開発・人材育成に係る情報発信：各種メディアの活用や学外での展示等を通して、本学における環境研究および人材育成を広く広報する。

この進捗状況報告書は、評価の後公表します。